

令和5年4月10日

東大和市立第五中学校 保護者 様

東大和市立第五中学校
校長 住吉 豊

生徒の欠席受付時の対応及び長期欠席生徒への対応の工夫について

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育についてのご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。

本校は、昨年度に引き続き、不登校対策を推進してまいります。

つきましては、下記のとおり生徒の欠席受付時の対応及び長期欠席生徒への対応を行っておりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 学校の欠席受付方法の工夫について

不登校を未然に防ぐためには早期の対応が重要です。「なんとなく」欠席し「なんとなく」欠席を続けてしまったり、理由が不明確なまま安易に欠席を認めてしまったりすると対応が遅れ、気付いたときには事態が深刻化しているということがあります。

そこで、生徒が学校を欠席する場合は、その理由を必ず明確にして学校に連絡していただきますようお願いいたします。生徒が体調不良（例 気持ちが悪い、頭痛、腹痛）を訴えている場合は、検温を行うなどの対応を行ってください。また原則として医師の診察を受け、欠席する必要があるか否かを判断してください。

これらのことによって、生徒が「なんとなく」欠席し続けてしまうことを防ぐとともに、登校しぶりの原因や背景を探ることができ、早期の対応が可能となります。

詳細については、別紙「対応1 学校の欠席受付方法の工夫について」をご覧ください。

2 連続7日間以上の欠席生徒に対する、校長等面接の実施について

病気等の理由がなく連続7日間（休業日を除く）以上欠席が続く場合は、不登校の初期段階であると考えられます。その場合、校長等による三者面談（校長、生徒、保護者、必要に応じて専門家）の面接を実施いたします。そして生徒の欠席の理由や背景を明らかにし欠席の長期化を防ぎます。

詳細については、別紙「対応2 校長等面接の実施について」をご覧ください。

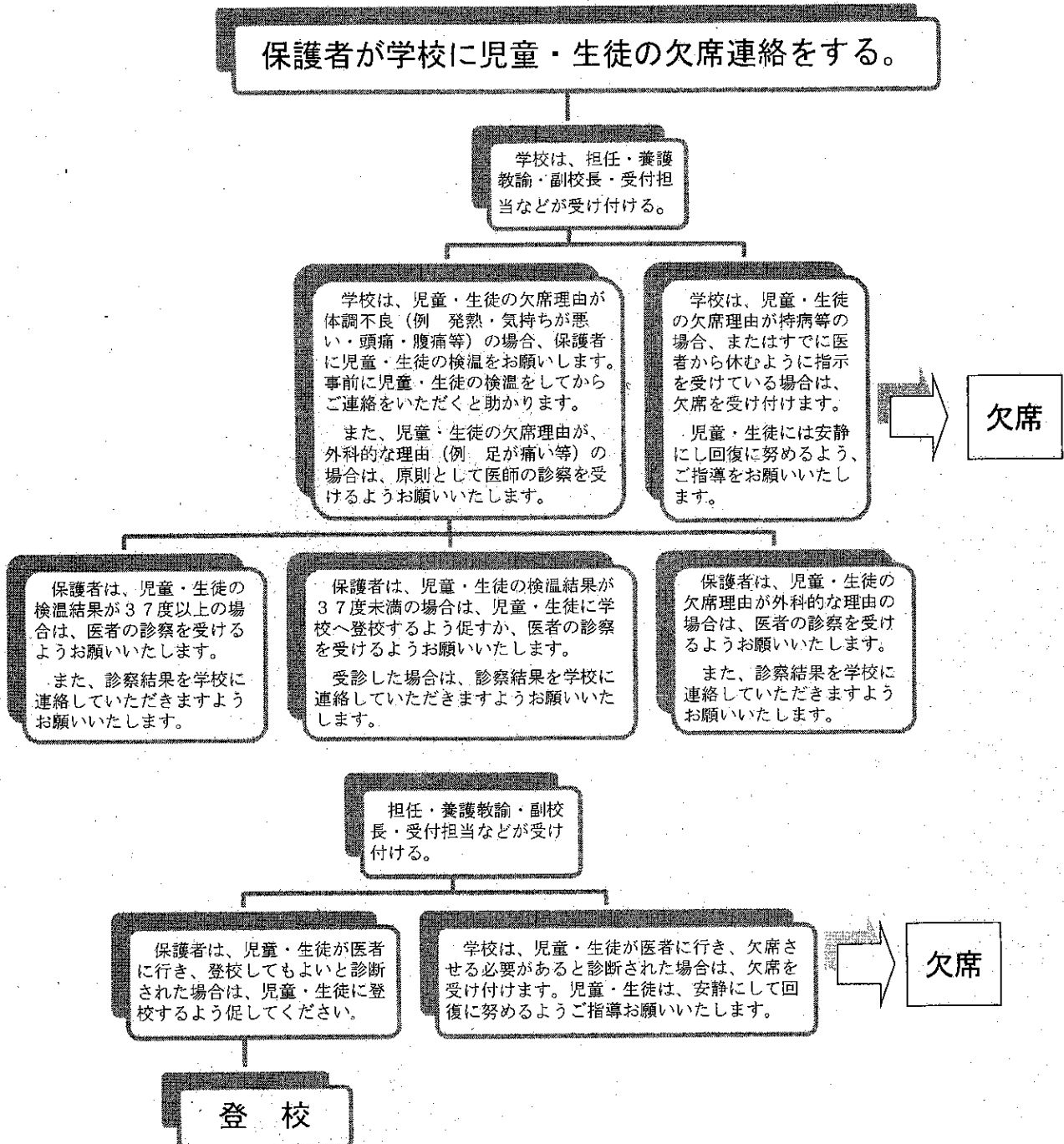
別紙「対応1 学校の欠席受付方法の工夫について」

(1) ねらい

不登校を未然に防ぐためには、児童・生徒の欠席理由を明確にし、曖昧な理由での欠席をさせず、登校しぶり（不登校の初期）に対応することが大切です。

そのためには、欠席をするときは児童・生徒の検温をし、体調を正確につかむとともに、医者の診察を受け欠席する必要があるか否かを判断していただくことが大切です。

(2) 欠席受付の流れ



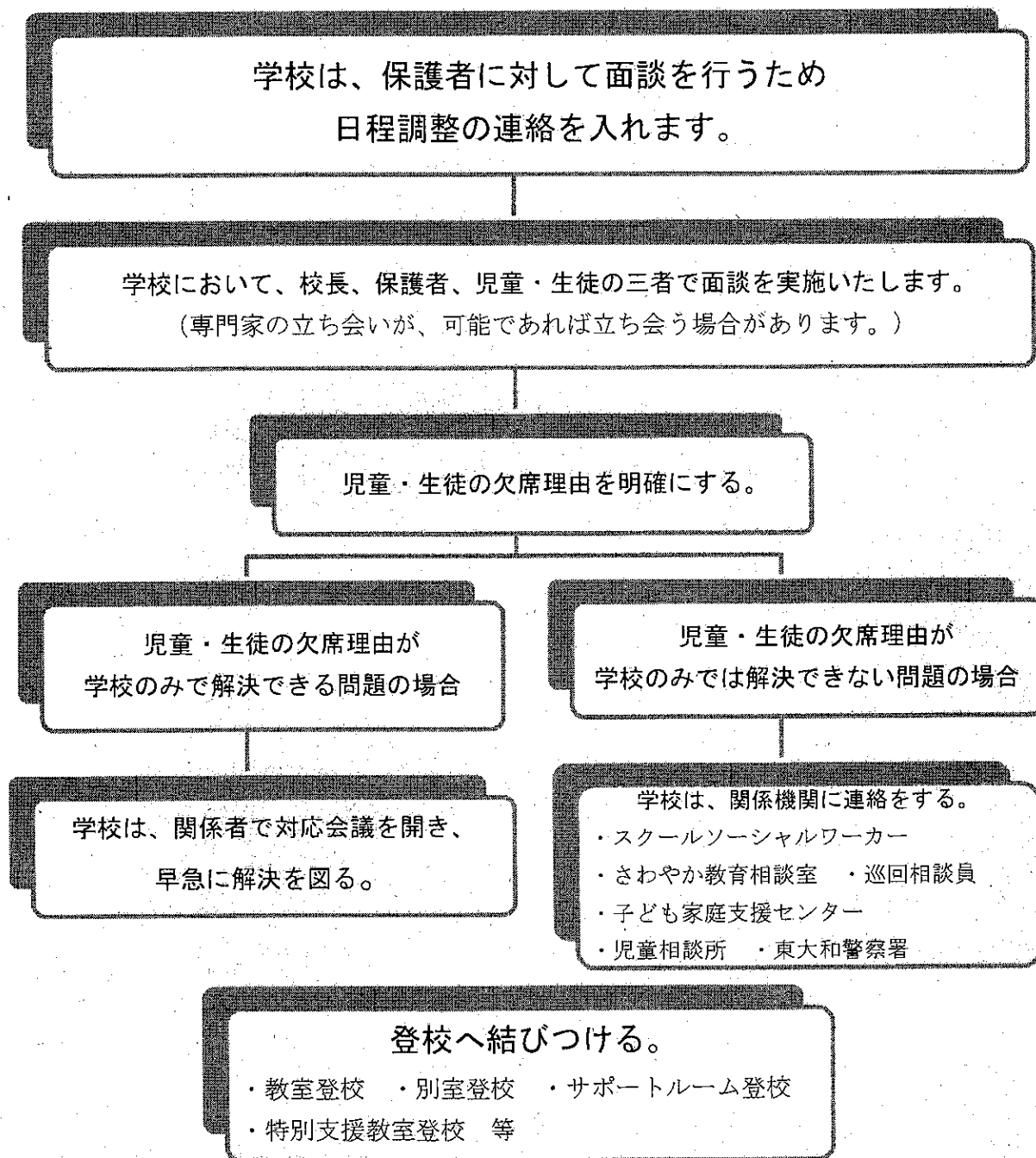
※ この対応は、原則的なものです。個別のケースには対応いたしますので、遠慮なく学校にご相談ください。

別紙 「対応2 連続7日間以上の欠席児童・生徒に対する、校長等面接の実施について」

(1) ねらい

病気等の理由がなく、連続7日間（休業日を除く）以上の欠席児童・生徒に対して、校長等面接を実施し、欠席理由を明確にし、その問題解決のために学校として全力を尽くし、児童・生徒の欠席長期化を防ぎます。

(2) 面接実施までの流れ



※ この対応は、原則的なものです。個別のケースには対応いたしますので、遠慮なく学校にご相談ください。